

理事者としての日常

今回の理事者室からは、副会長に就任して以後の日々どのような生活を送っているのか、理事者としての日常と活動の中で感じたことをご報告いたします。

スタート時の緊張感

4月1日から東弁副会長としての職務をスタートいたしました。そもそも自分に副会長としての職務が務まるのだろうかという不安がありました。また、朝9時ころからの会議も多く、どちらかといえば時間的制約が少ない生活をしていたため、朝の会議に遅れずに参加できるかも不安材料の一つでした。役員として務まっているのかについては今も不安が尽きませんが、朝早く起きることについては何とか対応できています。

日常業務について

今年度から導入された電子決裁をこなし（平均的には私自身は1日20数件くらい。なお、懲戒請求、紛議調停申立書など電子決裁となっていない書類の決裁もあります）、毎日100通を超えるメールの対応と日常的な担当職員からの相談の対応などに追われています。また、今年度も新型コロナウイルス対策を取ることとなりましたが、会議は緊急事態宣言下ではウェブのみ、緊急事態宣言が解除された後もウェブ会議が中心となっています。

夕方時間に役員室に役員が揃っている際には、さまざまなテーマで雑談をすることもあります。そのときは役員室が笑い声で包まれており、ほっとする時間です。

副会長 中井 陽子 (54期)

主な担当業務：会員サポート窓口、業務改革、弁護士倫理、広報、法制、男女共同参画、骨髄、会務活動、法律相談、災害対策、紹介センター、OA関係、関弁連



理事者会の様子

理事者会は原則として週2回、9時30分あるいは10時から12時まで行います。司会は5席の堂野副会長と6席の私が交代で行っています。理事者が論客揃いということもあり、議論が白熱し、司会者の立場からは、時間管理に苦勞をしています。ただ、真剣な議論はよりよい結果を生んでいるものと自負しています。

会議等について

やはり理事者になって一番大変だと思うのは会議の多さです。前述の理事者会が週2回のほか、月1回の常議員会、事前の正副議長との打ち合わせ、担当の委員会が20を超えており、委員会の前に委員会内の部会の会議にも出席することもあります。さらに、課題解決のために関係者との打ち合わせなどもあります。

役員が一人で何かできるわけではなく、職員の協力、担当委員会の委員の方々の協力が不可欠です。そしてこの協力を得るためにはコミュニケーションが必要です。このコミュニケーションが相互の信頼関係を生み出す源泉であると実感しております。したがって、この時間をショートカットするということとはできないものだと個人的には思っています。

最後に

弁護士会は委員会活動で支えられ、それは委員の方々の地道で真摯な活動によるものであり、さらに職員が裏方として支えてくれているからこそ継続できているということを強く感じました。解決すべき課題は決して少なくありませんが、最後まで悔いのないように職務を遂行したいと思います。